

◆東北福祉大・鉄道交流ステーション  
第24回企画展「鉄道の復興 その時、今、あした」  
11月7日(土)まで 10:00~16:00

震災で被災した鉄道や沿線の復興状況の様子の写真やパネルを展示。7月4日(土)までの第Ⅰ期では、「三陸鉄道」や「仙台空港鉄道」「JR貨物」などを取り上げている。8月4日(火)からの第Ⅱ期では、「石巻線」「仙石線」「常磐線」といったJR各線復旧の状況や、駅の移設などに伴う沿線地域のま



写真提供/JR貨物東北支社

ちづくりについて紹介する。観覧無料。

会場・問/東北福祉大ステーションキャンパス館3階  
鉄道交流ステーション(仙台市青葉区国見1-19-1)  
TEL022-728-6612  
休/日・月曜、祝日

◆荒浜にぎわい回廊商店街  
10:00~17:00(店舗により異なる)



震災で被災した巨理町内の8店舗が入る商店街

が、荒浜漁港近くに3月にオープンした。アーケードがあるWESTエリアには食堂や鮮魚店、カフェなど6店が並び、EASTエリアにはサーフショップ、パソコンの修理会社がある。月1、2回はイベントを開催し、7月19日(日)はジャズコンサート、8月9日(日)はロックフェスティバルを行う。時間など詳細は問い合わせを。

巨理町荒浜字築港通り6-34  
休/月曜(祝日の場合は営業、店舗により異なる)  
問/リアルサーフ  
TEL0223-36-9664

◆仙台うみの杜水族館  
7月1日(水)オープン

「いのちきらめく、うみの杜」をテーマに、国内外の生き物の魅力を紹介する水族館。三陸の豊かな海や広瀬川を再現した展示、水の中に入ってアメフラシやナマコ、ヒトデなどの磯場の生き物に直接触れられる「うみの杜ビーチ」などが楽しめる。「イルカ・アシカのパフォーマンス」も見どころ。



入館料は大人2100円、65歳以上・中・高校生1600円、小学生1000円、4歳以上未就学児600円。

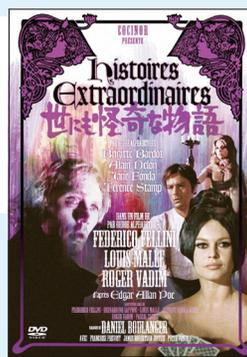
仙台市宮城野区中野4-6  
営/9:00~19:00(季節による変更あり)  
問/TEL022-355-2222  
http://www.uminomori.jp

世の中にも怖い話が好き  
な人は多く、好奇心のな  
い人は珍しい。今回は「怪  
奇な話」の映画と「奇妙  
な話」のドラマのオムニ  
バス。

世の中にも怖い話が好き  
な人は多く、好奇心のな  
い人は珍しい。今回は「怪  
奇な話」の映画と「奇妙  
な話」のドラマのオムニ  
バス。

世の中にも怖い話が好き  
な人は多く、好奇心のな  
い人は珍しい。今回は「怪  
奇な話」の映画と「奇妙  
な話」のドラマのオムニ  
バス。

●世にも奇妙な物語  
発売元/IMAGICA TV  
販売元/エスピーオー  
価格(税抜き)2800円DVD発売中  
©1967-TF1 INTERNATIONAL  
-PRODUZIONI EUROPEE  
ASSOCIATES S.A.S.



●世にも奇妙な物語1  
発売元/フジテレビ映像企画部  
販売元/ポニーキャニオン  
価格(税抜き)2500円DVD発売中  
©2007 フジテレビ



丹野 六右衛門/塩釜市在住、68歳。映画サークル「遊々シネマアターフレンズ」代表

SFXやCGなどの特殊効果がまだ未発達な時代に、これだけの映像を作ったことに感心します。当時一流の名監督をそろえ、俳優も豪華な顔触れ。原作は全てエドガー・アラン・ポー。3作品とも名画です。ご一覧を。

第1話は「黒馬の哭なき館」。監督は「獲物の分け前」「輪舞」などのロジェ・ヴァティム。主演

ある時転入してきた同姓同名の子と、ことあるごとに対立。ウイルソンはまるで自分の分身のような彼を憎む。軍隊入隊後、悪事を暴かれたウイルソンは彼を殺してしまうが...

第2話「悪魔の首飾り」。監督は「道」「甘い生活」のフェデリコ・フェリーニ。主演はテレンス・スタンプ。フェリーニ独特の重層的で幻想的な画面に引き込まれます。

麻薬と酒に溺れた、イギリスのかつての名優トビー・ダミット。映画祭で「黄金の狼」賞受賞のためローマを訪れる。しかし来訪の途中の空港で彼は幻影を見ていた。怪しくほほ笑む金髪の少女。副賞で手に入れたフェラーリで、深夜のローマを疾走するトビー。道に迷ったどりに着いたのは壊れた橋と、金髪の少女...。「リング」の貞子より、ずっと怖い美少女です。

世にも奇妙な物語1 (テレビドラマ) 「世にも奇妙な物語」とヒッチコックをまね、1990年に放映されたドラマシリーズ。完成度は低いけれど、視聴率もそこそこ取れ、現在もシリーズは続いています。DVD化第1作は「絶対イヤッ」「噂のマキオ」「幸福の選択」の3作。この中では「幸福の選択」が面白い。と思ったら、脚本が「花子とアン」の中園ミホでした。ストーリーテラーのタモリが若いので懐かしい。